

# 令和3年度第2回古賀市健康づくり推進協議会意見集約（要旨）

1. 開催日 書面会議（意見提出日 令和4年2月28日）

## 2. 会議概要

### 1. 報告事項

- (1)ヘルスアップぷらんに関する令和3年度の取組について
- (2)ヘルスアップぷらん策定にかかる市民アンケートの実施について

### 2. 協議事項

- (1)ヘルスアップぷらんの推進にあたり、事業の内容の充実を図るためのご意見や情報等について

## 3. 議事概要

### ①ヘルスアップぷらんの進捗状況について

- ・ヘルスアップぷらん（古賀市健康増進計画（第二次））及び古賀市食育推進計画について（資料1）
- ・食育推進計画の推進状況について（資料2）
- ・次世代の健康【学校との取組】（資料3）
- ・高齢者の健康づくり（資料4-1）
- ・質問票（資料4-2）
- ・人材育成と地域づくりについて（資料5）
- ・特定健診・特定保健指導の実施状況について（資料6）
- ・健康づくり推進協議会での協議事項（参考資料）

### ②ヘルスアップぷらん策定にかかる市民アンケートの実施について

- ・ヘルスアップぷらん（古賀市健康増進計画（第三次）・古賀市食育推進計画）アンケートにかかる市民アンケートの実施について（報告事項）

#### 4. 意見の取りまとめについて

ヘルスアップぷらん（古賀市健康増進計画（第二次）・古賀市食育推進計画）に関する事業の推進状況を確認いただき、委員7名より意見を頂いた。

##### （各委員からのご意見）

取組	内 容
次世代	<p>○花見小学校の味噌づくり体験は毎年実施されているが、子どもたちも楽しそうで、食への関心が深まっていくのを出席講座に関わって感じている。同じく小野小での体組成測定も健康づくり推進員として数年関わっているが、測定中の会話が児童の健康や生活習慣病予防につながっていると感じる。</p> <p>○全小中学校でも在校中に1～2回児童生徒が経験できるような取組はどうか。</p> <p>○古賀市には小中高校生からの健康づくりが特徴的。→特徴的な命名を事業にしてはどうか。（「小学校からの生活習慣病予防プロジェクト」等）</p> <p>○小野小プロジェクトについては、三者の連携事業が一旦終わったが、健康づくりプロジェクトは続いている。西小での取組、健康チャレンジ10か条の推進とも関連させて古賀市としての子どもの健康的な生活習慣の推進をしてはどうか。</p>
高齢者	<p>○高齢者の健康づくりに関して、コロナ禍においては実施が困難であるが、大きな声で会話をする事で嚥下機能が改善する場合もある。介護予防音楽活動の内容と重なることもあるだろうが、歌ったり、楽器を吹くことも有効である。感染症終息の折には、以前にも増して取り入れてほしい。</p> <p>○高齢者のフレイル予防のプラン、とても良い取組である。しかしコロナ禍の現状で活動の制限や社会参加の減少、これらによる閉じこもりがちな生活や筋力低下は高齢者に留まるものではないので、工夫した上で対象を拡げることも検討してはどうか。</p> <p>○質問票の「きちんと」という表現が分かりづらい。（栄養バランスなのか、3食食べることなのか）</p> <p>○今回の取組で特に心にとまったのが、高齢者の健康づくり①「ハイリスクアプローチ」。健康状態不明者を把握して、一人ひとりに「質問票」や「電話による聞き取り」「自宅訪問」等の直接的なアプローチをされていて、一人も見殺しにしないぞという気持ちが伝わってきた。</p>
人材育成と地域づくり	<p>○健康寿命の延伸・健康格差の縮小のために食生活改善推進員・健康づくり推進員・介護予防サポーター（運動・音楽）の養成講座を例年開催し、すぐ活動できる人材を育成してきた事は市の財産になっている。</p> <p>○地域の出前講座でも健康チャレンジ10か条も活用されており、市民協働で作成された10か条としてさらに周知してほしい。</p>
特定健診・特定保健指導	<p>○特定健診受診率については、40%くらいまでは常に維持していきたい。特定保健指導については実施率が上昇傾向にあるので、効果が出ているのではないかと。</p>

## その他

- 今年度はコロナ禍でもあり、当初予定されていた事業も計画通りには推進できないこともあったのではないかと感じた。その中で多くの工夫をしながら実施していると感じた。
- 市民一人ひとりの健康づくりをめざして、基本構想から具体的な取組まで行政の使命として熱心に取り組んであると率直に感じた。一市民としてこのような市に居住していることを誇らしく思う。
- 健康づくりに関する取組は、濃淡はあるものの全国の自治体で行われていると思う。古賀市も含めて福岡県は健康寿命と特定健診受診率が伸び悩んでいる。2021年の都道府県「健康寿命ランキング」で36位から1位（男性）になった大分県や特定健診受診率の高い自治体の取組に学ぶのも良いかもしれない。
- あらゆる世代の一人ひとりに直接的・間接的にも着実に確実にアプローチができれば、課題の解決につながるだろう。→例えば、全市民がスマホを携帯し、行政と市民が双方向につながるようになると健康に関する知識や取組を共有することができるのでは？
- 健康づくりの「古賀市モデル」のようなもの柱にしてはどうか。→例えば健康測定を全小・中・高に広げる。また「老人会」の活動を健康寿命延伸に特化した取り組みを行う。あるいは、古賀市のプロジェクトに全企業も参加してもらって、社員みんながそれに参画し、実践・評価する仕組みをつくり、健康ポイントをもっと魅力あるものにする。いずれにしても次期ヘルスアップぷらん策定に向けて健康に関するアンケート調査を実施し、市民の意識（実態や要望等）を把握することから始めた方がよい。
- 子どもから高齢者に至るまで様々な取組を様々な機会を通じて実施しており「健康寿命の延伸・健康格差の縮小」に向かっている概略図は大変分かりやすく全容をイメージできる。
- たくさんの事業を展開されているが、それらの事業の目的や目標と最終的なゴールに向かっている関連性や事業間の関連図、ゴールにむかう事業実績の評価の積み重ね効果のイメージなどがもう少し可視化できるとより良いのではないかと。
- 子どもの健康的な生活習慣の推進、健康寿命の延伸、健康格差の縮小、それらの重要なキーワードの事業間の関連性をもっと表現できると古賀市の取組がもっとクリアに伝わり、事業評価のための調査につながると思う。